

## 江戸時代の交通を考える ～ものはどのように行き来したのか？～

### (1)本時のねらい

江戸時代の交通網（陸上、河川、海上）の役割を、身近な地域にある具体的資料をもとに、それぞれ考察する。

交通の発展によって社会はどのように変化したか、が理解できる。

### (2)展開

	学習活動・学習内容	・指導上の留意点 評価	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の物流について考える。</li> <li>どのように「もの」を運んでいるのか？発表する。 トラック、船、飛行機、鉄道 など</li> <li>『これらがなかった江戸時代はどうしていたのか？』 予想をたて、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校5年での物流の学習を思い出させ、多くの生徒にテンポ良く発表させる。</li> <li>「ものの行き来はあったのか？あるとすれば、何で運んだのか？」を考えさせる。</li> </ul>	【映像】 現在の物流の様子
<p><b>『陸上交通と河川・海上交通はどちらがより重要な交通網だと思うか？理由をふまえ、考えよう！』</b></p>			
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のテーマに対する答えを、理由とともに予想し、ノートに書き、発表する。 授業前調査</li> <li>&lt;てだて1&gt; 【博士による説明を聞いて、江戸時代の様子を見てみよう。】</li> <li>陸上交通博士 河川交通博士 海上交通博士の3人が登場し、それぞれの交通の様子について、視覚資料を使って説明する。</li> <li>「何をどのように運んだのか。運ぶ人の様子は。まちの様子は。その交通の利点は。」など、具体的な発表を行う。</li> <li>発表ごとにわかったことを、ノートにまとめる。</li> <li>&lt;てだて2&gt; 【博士達の発表+教師からの提示資料をもとに、本時のテーマに対し検証を行う。】 陸上交通...五街道の整備「なぜ幕府は五街道、その他の街道を整備したのか？」→参勤交代 物流</li> <li>私達の身近にある中山道の役割、宿場町の様子を大宮宿を取り上げ、見ていく。</li> <li>河川・海上交通</li> <li>福岡河岸記念館、見沼通船堀開閉実演などの資</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に、各自でたてた予想が正しいか考えながら授業に参加するよう、指導する。</li> <li>3人の博士には事前に高いレベルの発表になるように、原稿の書き方、発表の仕方の指導を行う。</li> <li>3人の博士の意見を聞いて、他と比較しながら交通の様子、利点を明確にすることができたか。（思考・判断）</li> <li>大宮宿は、市立博物館にある模型や絵図、本陣、旅籠の様子など視覚的資料を用いる。</li> <li>高瀬船、ひらた船の模型、河岸場の絵図、運搬した物など視覚的資料を用いる。</li> <li>見沼通船堀開閉実演の映</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【地図】さいたま市</li> <li>発表原稿</li> <li>発表の映像</li> <li>映像</li> <li>大宮宿</li> <li>福岡河岸</li> <li>通船堀</li> <li>映像</li> </ul>

<p>まとめ</p>	<p>料をもとに、河川交通5W1Hに答えていく。  「河川交通は、どのような船が、どこで、どこに、どんなものを運んでいたのか？その役割は、人々の苦労は？など」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔は、川に沿ってまちが発達していたことを知る。</li> <li>北前船資料館などの資料をもとに、東回り航路、西回り航路、菱垣回船について理解し、大量運搬の様子を理解する。</li> <li>本時の授業をうけて、テーマ『陸上交通と河川・海上交通は、どちらが重要な交通網だと思うか？』を再度考える。</li> <li>理由も合わせてノートに書き、挙手をし、その理由を発表する。</li> <li>「江戸時代、交通の発達によって社会はどのように変化したのか」を考え、ノートに書く。</li> <li>教師の話聞き、まとめとする。</li> </ul>	<p>像を流し、当時の雰囲気を感じさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在の私達の感覚では、理解し難いが、当時は河川・海上交通が物流の大動脈であったことを理解させる。</li> <li>全国の米や商品作物が大阪や江戸に集まってくる様子を理解させる。</li> <li>今回は、「どちらともいえない」も可とし、その理由をしっかりと書かせることを重要視する。</li> </ul> <p>様々な資料をもとに、論理的に理由を述べるのができたか。(資料活用・表現)  江戸時代の交通網の理解が深まったか。(理解・思考)</p>	<p>【資料】 大宮宿 福岡河岸 北前船 大阪蔵屋敷跡</p>
------------	--	---	---

## 資料

### (3) 訪問先及び資料の入手先

さいたま市立博物館、浦和博物館、大宮宿（本陣、脇本陣跡）、飯田河岸跡、福岡河岸記念館（富士見市）、見沼通船堀開閉実演、北前船資料館（石川県）、江戸東京博物館（両国）、など

<p><b>大宮宿</b></p> <p>大宮宿の模型」</p> <p>本陣跡</p> <p>道中手形</p>	<p><b>福岡河岸記念館</b></p> <p>向こうに新河岸川が見える</p> <p>船荷札</p>	
<p><b>飯田河岸跡</b></p>	<p><b>見沼通船堀開閉実演</b></p>	<p><b>北前船資料館</b></p>

日本海



## さいたま市の商品作物と手工業

### (1) 学習のねらい

江戸時代中期より、農村でも商品作物の栽培など、自給自足の生活から貨幣経済に巻き込まれていく様子を様々な資料を使って、大きくとらえる。

さいたま市でも、長芋、柿渋、紅花が多く栽培されていたことを知り、それらの栽培状況、盛んになった理由、背景を考えることができる。

### (2) 展開

	学習活動・学習内容	・指導上の留意点 評価	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、さいたま市で名物になっているものを思い出し、その際「なぜ名物になったのか？」理由を考える。 → うなぎ ... 沼地が多く、川魚がとれた</li> <li>・長芋、柿（赤山柿）、紅花の実物を見て、この3つに共通する点を考える。 → 江戸時代から、さいたま市で作られ売られている商品作物</li> <li>・さいたま市の地図で栽培エリアを確認する。</li> <li>・本時のキーワードとテーマを全員で読み、確認する。</li> <li>・本時のテーマに対する予想を、各自ノートに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒にテンポ良く発表させる。</li> <li>・その土地の名物になりうるための自然条件、社会的条件を念頭に抱かせる。</li> </ul> <p>予想をたて、それを検証しようという、意欲的な学習態度が見られるか。(意欲・態度)</p>	<p>長芋、赤山柿、紅花の実物</p> <p>【地図】さいたま市</p>
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>商品作物の栽培によって、江戸時代中期、農民の生活にどのような変化が起こったのか？</p> </div>			
展開	<p>発 『なぜ商品作物を栽培するようになったのか？』</p> <p>この発問に対し、江戸時代の農村について教師の発問に答えながら、考えていく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例 江戸中期以降の耕地拡大、農業技術の改良 → 農業生産力の増大 → 年貢を上回る余剰生産物 → 換金し、肥料や農具、雇い人の賃金にあてる</p> <p>「自給的主穀生産」 → 販売目的の「商品生産」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さいたま市で生産の多かった、「長芋」、「柿（赤山柿）」、「紅花」の3つについて、それぞれ担当の生徒からの説明をうける。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;内容&gt; 栽培状況 栽培が盛んになった理由 その背景（自然条件、社会的条件）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表終了時ごとに、わかったことをノートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自でたてた予想が正しいかどうか、さいたま市の資料を中心に使って、検証する授業を展開する。授業に明確な目的を持たせる。</li> <li>・事前に3人の生徒に、授業の趣旨を説明し、「長芋」、「柿（赤山柿）」、「紅花」について調べさせる。効果的な発表になるよう、アドバイスをする。</li> </ul> <p>発表を聞き、わかったことを自分の言葉でまとめていたか。（理解・技能）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紅花が「村鑑」「村明細帳」によって、さいたま市エリア</li> </ul>	<p>発表原稿資料</p>

<p>展開</p> <p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3つの中で「紅花」を取り上げる。</li> <li>・ 紅花が染料になる行程を、桶川の「歴史民族資料館」などの資料を使い、考える。</li> <li>・ 紅花栽培によつての変化を探っていく。 → 農民の生活 商業 流通</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国に目を向け、「商品作物の地図」からわかることをノートに書く。</li> <li>・ 商品作物の広がりにより、後の世にどんな影響を与えたのか、考える。 → 藩の専売...力をつける藩 商業の発達...商人の力の増大</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の授業をうけて、テーマ『商品作物の栽培によつて、農民の生活にどのような変化が起こつたのか?』を、ノートにまとめ、発表する。</li> <li>・ 教師の話聞き、まとめとする。</li> </ul>	<p>で栽培されていたものがわかることを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紅花は、桶川が有名であるが、与野でも栽培され、河岸場から船で江戸に運ばれていた事を知らせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国各地で商品作物の栽培が盛んになり、貨幣経済が浸透してきていることを理解させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「以前は～、それが～のように変化した」と書かせる。本時のテーマに対し、様々な視点から考察でき、自分の言葉で考えを書くことができたか。(思考・表現)</li> </ul>	<p>【映像】</p> <p>紅花の染料になるまでの行程</p> <p>紅花に関する資料</p> <p>商品作物地図 教科書 資料集</p>
----------------------	--	--	--

(3) 訪問先及び資料の入手先

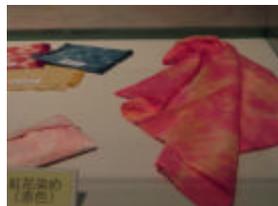


さいたま市立博物館、浦和博物館、桶川歴史民族資料館、桶川稻荷神社石灯籠（紅花商人達が奉納）、柿渋栽培農家（片柳）など

1、桶川紅花



つみ取りから左回りの行程で  
紅餅を作る



きれいに染めあげると...



紅花商人達が  
奉納した  
石灯籠（稻荷神社）

2、柿渋栽培農家（片柳）



長屋門で作業していた 柿渋作りの樽がある



近くには、柿の木がたくさんある